

山陽自動車道全線（神戸 JCT－山口 JCT 間） 開通 20 周年を迎えて

西日本高速道路（株） 中国支社 総務企画部 企画調整課

はじめに

山陽自動車道（以下、山陽道）（神戸 JCT－山口 JCT 間）は、2017 年 12 月に全線開通してから 20 年を迎えた。これまでに総通行台数約 20 億台、総輸送人員約 35 億人、総輸送トン数約 26 億トンのご利用を頂いている。20 周年という節目の年に山陽道ご利用の感謝を表すとともにお客様、地域の方々にこれまで山陽道が果たしてきた役割、高速道路ネットワークのストック効果をわかりやすく伝えることを目的とし、特設ホームページにおいて PR を行うとともに以下の活動を実施した。SA での大感謝祭イベントでは、より多くの方に来場していただくため、ザ・モール周南や、ゆめタウン廿日市、三井アウトレットパーク倉敷、イオンモール神戸北といった高速道路沿線の大型ショッピングモール等での事前告知イベント開催や、山陽道 20 周年記念のテレビ番組放映による PR、沿線の自治体の協賛もいただき連携して観光 PR も実施した。イベントは、2017 年 11 月 11 日に山口県の下松 SA 下り、11 月 18 日広島県宮島 SA 下り、11 月 25 日岡山県吉備 SA 上り、12 月 9 日兵庫県三木 SA 下りで開催し、ご当地出身の著名人や知事によるトークショー、地域の子供たちによるパフォーマンスステージ、とれたて野菜や果物、名産品などを購入できる賑わいマルシェ及び高速道路のストック効果パネルの展示など、地域の方々の協力もあり盛況を博すことができた。またイベントの実施状況についてはテレビ番組などにも取り上げられ地域の皆様に広く PR することができた。



下松 SA イベント状況

本稿では、山陽道がこれまで歩んできた歴史と、もたらしたストック効果等について、概説する。

山陽自動車道の整備の背景

山陽道は、瀬戸内海沿岸の各都市を結び、中国自動車道（以下、中国道）に修正と共に、山陰地方や四国とも結節する西日本地域の重要な幹線道路である。



兵庫県及び中国5県の高規格幹線道路網図

山陽道開通前は一般国道2号の慢性的な交通混雑が地域の課題となっており、1972年に施行命令が出され、一部区間を建設省中国地方建設局へ業務委託し、国及び日本道路公団が一体となって早期開通を目指し事業に取り組んだ。

1982年の龍野西IC～備前IC間の開通を皮切りに1997年の三木小野IC～山陽姫路東IC間の開通による山陽道の全線開通まで、ほぼ毎年一部区間が開通し、開通時に期待されていた交流の拡大や広域都市圏の形成など効果が発揮され、山陽道は現在に至るまで地域の発展に寄与してきた。



三木小野IC～山陽姫路東IC間の開通式

山陽自動車道のストック効果

全線開通前には、山口市から神戸市まで約11時間40分かかっていたものが、全線開通により約5時間40分となり約6時間短縮された。貨幣換算すると年間約3千億円の効果があり、新たな企業団地の誕生や農産物運搬可能距離の延伸、地域間の交流拡大など様々な分野の発展に貢献してきている。

2014年3月4日に中国道 福崎IC～山崎ICで発生した大型トラックの火災事故では7時間の通行止めがあり約600台の車が山陽道へ転換し中国道の迂回路としての代替機能を発揮した。

山陽道沿線の製造品年間出荷額は、全線開通前の1980年には約17兆円だったが全線開通後2014年には約25兆円となり、年間1.5倍の約8兆円まで、増加している。特に、製造品出荷額が5.7倍に増加し

ている防府市では、これまでに工業従事者が約4千人も増加し、現在でも「防府テクノタウン」等、新たな企業団地が造成・分譲されており、地域雇用の拡大に貢献している。



防府テクノタウン

また、中国・九州地方から大都市圏への運送時間短縮や定時性の確保が図られ、各地の地産品の市場規模拡大にも寄与している。例えば、岡山県産のピオーネの大阪市中央卸売市場における取扱量は山陽道全線開通前後で約150倍、市場内でのシェアは5%から64%まで上昇しており、熊本県産のトマトにおいても神戸市中央卸売市場における取扱量は約5倍、市場内でのシェアは9%から46%まで増加している。

ほかにも、高速道路網の整備により高速バスの路線、便数が増加しており、地域内の高速バス運行便数は全線開通前に比べ158便/日が1,805便/日と約11倍になり、地域の通勤通学や広域交流の活性化に貢献している。

観光面では、広島県の山陽道沿いの市町である広島市や廿日市市、福山市、尾道市において山陽道全線開通前1983年に年間約1,900万人であった観光客が2013年には年間約1.8倍の約3,400万人にまで増加しており、高速道路の開通に伴い自治体規模で観光客が増加してきている。姫路城においては山陽道全線開通前1997年に年間約70万人であった観光客が2015年には年間約4.1倍の約290万人にまで増加しており全国城郭で第1位の入城者数を記録している。

救急搬送においては、高速道路本線から一般道へ直接行き来できる緊急開口部を利用することで距離の短縮や渋滞ポイントを避けたルート選択が可能となり病院への搬送時間短縮が図られている。消防局の方からは「高速道路を利用することにより車両の振動が減少され傷病者の方への負担が軽減し安全運行にも効果があった」とコメントをいただいております、医療の面でも高速道路が大きな役割を担っている。

終わりに

ストック効果についてはイベント終了後も高速道路の休憩施設に設置されているデジタルサイネージ等にて広くPRを続けており、一過性のイベントで終わらせることなく高速道路の理解を深めていただくための取り組みを継続して実施している。これまでも人の交流や物流を支え地域の発展に寄与してきた山陽道であるが、これからもNEXCO西日本として、山陽道等の高速道路を活用し、人と人、街と街をつなぎ、魅力ある地域づくりに貢献していきたい。